インドネシア・ジャワ島中部地震被災者支援完了報告

2008 年 4 月 28 日
エファジャパン
大島芳雄

２００６年５月２７日現地時間午前６時頃インドネシアのジャワ島ジョグジャカルタ南南西２５キロでマグニチュード６.３の地震が発生し、約６,０００人が犠牲となり、被災者は６５万人に上った。

エファジャパンは、６月１日、当時の吉川健治事務局長を被災地に派遣し、現地ＮＧＯ２団体と連携して、調査活動を行った。その結果、被害が最も深刻であったジョグジャカルタ州バントゥル県を支援地区とし、公衆衛生施設（トイレ）の設置を決定した。

住環境の悪化による伝染病の大規模な発生を防ぐため衛生施設の整備が必要であるが、倒壊した家屋の補修・再建には日数がかかり、トイレの修復は後回しになりがちなので、トイレの建設を重視した。

連携した現地ＮＧＯは以下の通り。

ディアン・デサ財団（Yayasan Dian Desa）

１９７２年設立。職員３００名余りを要するインドネシアでも有数の NGO であり、水供給、排水処理、自然エネルギー、小規模産業育成などの分野で実績を上げている。

緊急支援金額：３,０００,０００円

アムルタ・インスティトゥート（AMRTA Institute）

２００４年設立。水資源の公正な配分のために、住民への啓発や政策提言を実施している。

緊急支援金額：２,８００,０００円

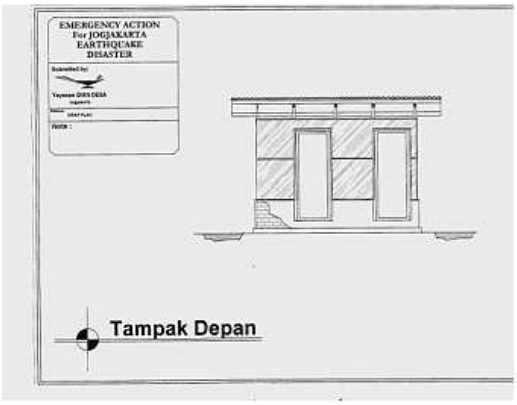
支援内容

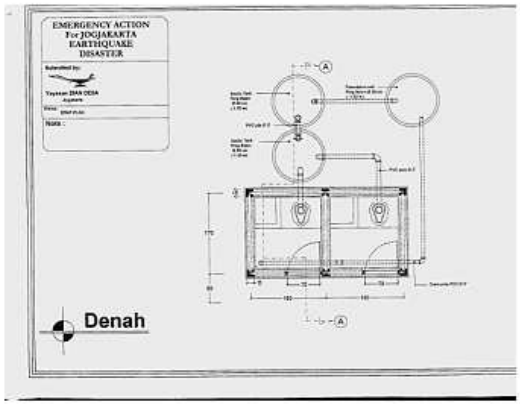
ディアン・デサ財団を通じて、バントゥル県の５村（Kebon Agung、Patalan、Srihardono、Timbulharjo、Sumber Agung）６５カ所に公衆トイレを設置した。２部屋を１ユニットとしているが、現場の状況によって、部屋数は異なる。【図面と写真参照】

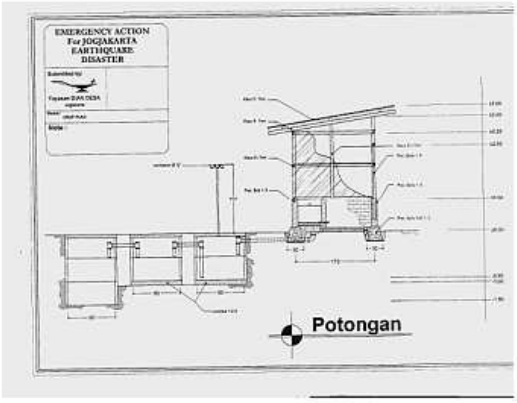
アムルタ・インスティトゥートを通じて、バントゥル県１村（Canden）２７８家族にトイレ再建用の資材（便器、配水管、セメント、砂）を提供した。【写真参照】

地震直後の被災地

ディアン・デサ：トイレ図面







ディアン・デサ：完成した公衆トイレ

アムルタ: トイレ用資材

アムルタ:資材の配給

アムルタ: 家庭のトイレ建設

アムルタ: 完成した家庭トイレ

緊急支援モニタリング

２００７年１０月２２日～２４日、筆者が支援地区を訪問し、支援結果を視察した。

ディアン・デサ財団

公衆トイレは現在も使用されているが、家屋の再建が進んだ結果、一部を除き、公衆トイレとしての役割は終わり、個人の敷地内のものは敷地の所有者や近所の家族のみが使用していた。モスクの敷地に設置されたものは、モスク再建後に、礼拝前に体を浄める洗い場になっていた。

トイレ自体に関しては、ディアン・デサ財団が派遣した技術者・職人と住民が協働で設置したため、同じ規格でつくられていた。品質的に問題はなかったと思われる。

【写真参照】

アムルタ・インスティトゥート

公衆トイレではないので、村長の案内で家庭内のトイレを見てまわることになった。トイレの再建・補修を必要とする家庭に資材を配り、個別に再建・補修がされたため、トイレの形態は様々であった。

【写真参照】

被災地の復興は、着実に進んでいる。しかし、資金不足のためか、家庭ごとに復興のレベルが異なっている。壁ができても屋根がなかったり、窓枠がはまっていてもガラスが入っていなかったり、再建・修復の状態は家庭ごとに差があった。いまだに、竹で編んだ仮設住宅に住んでいる人もいた。

２つのＮＧＯの支援地区各１カ所で、住民との会合をもった。どちらとも、住民から支援への感謝とともに、復興、特に住宅再建への支援を要請された。

残りの支援金を復興資金にする予定であるが、多数の住宅再建への支援は金額的に不可能である。支援地区を更に限定して（村から集落)、コミュニティに裨益する事業計画を作成し、１１月末までに提出するよう、同じ２ＮＧＯに依頼した。

ディアン・デサ：公衆トイレの現状

ディアン・デサ：支援地区の現状

ディアン・デサ：住民集会

アムルタ: 家庭トイレの現状

アムルタ: 支援地区の現状

アムルタ: 村長との会合

復興支援モニタリング

２００７年１２月から始まった復興支援事業のモニタリングを２００８年3月２９日と３１日に実施した。

ディアン・デサ財団（復興支援金額：２,７２６,１６０円）

１）灌漑用井戸とポンプの設置

地震直後に公衆トイレを建設した集落ケプハンに、乾期の田畑の灌漑用に、２カ所で深井戸を掘り、それぞれにポンプとエンジンを供与した。乾期の灌漑によって、作付け面積と農作物の収量が増え、被災地住民の家計収入増加が期待される。視察時は既に雨季が始まっていたため、機材は使われていなかったが、購入した機材と深井戸を確認した。

【写真参照】

２）オートバイ整備技術の指導

同じ集落で、無職青年の就労を促進するため、オートバイの整備技術研修を実施した。研修には１０名が参加し、オートバイのエンジンだけでなく、自動車のガソリンおよびディーゼルエンジンについても学んだ。ディーゼルエンジンの知識は、上記灌漑用エンジンの保守にも役立つ。参加者の要望により、町の修理工場での実習が継続されている。

【写真参照】

アムルタ・インスティトゥート（復興支援金額：１,８６１,６７０円）

１）公衆衛生教育の実施

地震直後に家庭のトイレの建設を支援したキャンデン村の２集落で、生活用水の水質検査や生活排水の再利用促進を実施し、水源の保全を啓蒙した。研修には、合計３９５人が参加した。モニタリング時、２集落の代表（二人とも女性）は、それぞれ２０分近く熱弁を振るって、生活用水を清潔に保ち、健康で環境にやさしい生活を送る心構えを報告してくれた。

【写真参照】

２）コミュニティセンターの建設

上記２集落に、住民参加でコミュニティセンターを建設した。

【写真参照】

灌漑用井戸１

灌漑用井戸２

ポンプとエンジン

実習中の研修生

コミュニティセンター1

コミュニティセンター2

集会に集まった住民

集会に集まった住民

住民代表1

住民代表2

収支報告

寄 付 金 合 計		**１１，０４３，２３４円**
支 出 合 計		**１０，７７３，４８１円**
内訳	**緊急支援**	**５，８００，０００円**
	ディアン・デサ財団	３，０００，０００円
	アムルタ・インスティトゥート	２，８００，０００円
	復興支援	**４，５８７，８３０円**
	ディアン・デサ財団	２，７２６，１６０円
	アムルタ・インスティトゥート	１，８６１，６７０円
	管理費（送金手数料・モニタリング費用等）	**３８５，６５１円**
残　　額		**２６９，７５３円**

※ 残額は、今後の緊急支援に対応するための準備金とすることが、2008 年 4 月 24 日開催の理事会で承認された。

以上